

令和1年4月23日付・山陰中央新報

出雲 県立大生 避難所運営学ぶ



県立大の学生が21日、出雲市大津町の市男女共同参画センターで、男女共同参画の視点を踏まえた災害避難所の在り方を出雲市の担当者から学んだ。

松江キャンパス地域文化学科のまちづくりに関する授業で、出雲キャンパスの防災サークルや浜田キャンパスで防災を研究する学生も含め、計20人が参加。

センターの森脇都多江所長から、2011年の東日本大震災の避難所でプライバシーが十分に確保できなかったり、炊き出しや家族の世話などが重なったりして体調を崩した女性がいた事例などを聞いた。

その後、学生は複数のグループに分かれ、市が作った避難所運営シミュレーションゲームに挑戦し写真。市内で大規模地震が発生し、コミュニティセンターに45世帯80人が避難する設定で運営方法を協議した。簡易トイレや物干し場など、性別に配慮した機能をどう設けるかや、「1人暮らし」「子どもの夜泣きがある」といった条件に応じて避難者の生活スペースの場などを決めた。

（万代剛）